

最終更新日	2011年(平成23年) 10月31日
-------	---------------------

校番 5	福山市立川口小学校
------	-----------

1 学校教育目標

豊かな心を持ち、主体的に生きる児童の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命 (ミッション)

地域に誇りを持ち、地域に学び、地域を愛する子どもを育てる学校づくり

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像 (ビジョン)

◇子ども一人ひとりの、やる気・こん気・げん気を育てる学校◇

①学びの姿を確立し、基礎的知識・技能を身につけさせ、これを活用する力を育てる。

②教育環境の充実と生徒指導の組織的取り組みにより豊かな心を育て、遊びと継続的運動を積極的に奨励し基礎的体力向上を図る。

③「市教委支援事業(国語・外国語活動)」の研究実践を関係校と共同しながら進める。

④不登校児童数と欠席率をさらに減少させる。

3 自校の現状分析

- 全国学力テストの算数Bが3ポイント、基礎基本定着状況調査の国語が0.7ポイントそれぞれ平均を下回ったが、あとは、全国・県平均以上であった。
- 全体的に落ち着いており、学びの姿勢が整ってきているが、生徒指導上の課題がある。あいさつ・礼儀正しい言動・エチケットやマナーなどが育ちつつある。
- 新体力テストで県平均以上の項目率が前年比13.3%上昇した。
- 不登校児童数は1人、30日以上欠席者は前年比50%減であるが、不登校傾向の児童は多い
- 花壇・教材園は充実してきたが、清掃が十分行き届いているとは言えない。

4 研究主題

(1) 研究主題

自分の考えを持ち、豊かに表現できる児童の育成

国語科 読解力を読書に活かし、豊かに表現できる児童をめざして

外国語活動 外国語活動を通じて豊かなコミュニケーションを図る児童の育成をめざして

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
県	不登校対策実践指定校	平成23年度
県	心の元気を育てる地域支援事業	平成23年度
市	教育研究支援事業(国語、外国語活動)	平成23~25年度
市	少人数指導推進支援事業	平成23年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
①全学力テストで平均点を上回る	教科や観点によって通過率が平均以下である。
②美しい教育環境づくり	児童自ら主体的に取り組み、喜びをもたせる環境づくり。
③体力テストの県平均項目率を前年度比10%アップとする	たくましい体にたくましい心が育つをモットーとする。

6 評価基準

評価・指標評価	基 準	
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

・ 自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

7 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	( ) 評価	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み ◇成果と取組み に着目)	( ) 指標 評価	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期) 経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策		
確 かな 学 力	1	①すべての学力 テストで通過 率85%の学 力をつける ②思考力・判断 力・表現力を確 かな力として 育てる。	★	継続	①すべての学力テストで 平均点を上回る ①学習の約束3項目(準 備・時間・聞き方)を 徹底指導し学びの姿を 育てる。 ②言語活動の充実を意識 した授業実践をする。	B	▽国語・算数教室を、月に2時間以上実施する。 国語：主語述語、算数；数学的思考力を重点 に行う。	c	□国語・算数教室は、各学年とも計画的に実施した。7月末平 均7回(6～9回)実施した。国語では主述の関係や漢字な ど言語事項の定着、算数では知識・技能の定着を主に行った。 ○本年度の基礎基本調査では、国語は67.7% (県平均 78.5%) 算数は74.3% (県平均77.8%)で 県平均を 下回った。 ◎今後も国語・算数教室は計画的に実施していく。また、数学 的思考力を育てる問題にも取り組んでいく。		
	継続			◇発達段階に応じて、指標的目標を掲げ、95% 以上の達成をめざす。						b	□準備・時間・聞き方の達成率の平均は90.3%で、95% 以上に達していない。 ○学習の準備87%、チャイム着席92%、聞く92%の定着 率である。チャイム着席は習慣化されてきており、聞く態度 も育ってきている。 ◎学習の準備の定着を図るため、前時の終わりに次時の準備を するように声かけをしていく。
	★			新規						▽全ての教科の指導案に言語活動のねらいや評 価を導入する。	b
豊 かな 心 と 健 や かな 体	1	①手ごたえのある 道徳的実践 力を育てる。 ②不登校児童数 を0にする。 ③新体力テスト の県平均以上 の項目率を7 0%以上にす る。	★	継続	①道徳の授業力を向上す る。 ①美しい教育環境に美し い心が育つ。 ②年間30日以上欠席者 数を50%減にする ③新体力テスト県平均以 上の項目率を前年度比 10%上回る。	B	▽総合単元的な道徳学習を年間2回以上実践す る。 ▽模擬授業等実践的研修を2回行う。	b	□各学年で1学期総合単元的な道徳学習の計画を立てて実践し た。夏休み講師を招いて、模擬授業等の研修を行った。 ○研修内容を生かして指導案をつくり、授業実践を進め、授業 力向上に努めている。 ◎今後も総合単元構想図をもとに授業を進め、進捗状況を把握 するとともに、単元内容を見直しを図る。		
	継続			◇児童会を中心に喜びを感じる無言清掃をす る。						b	□「だまって掃除する」は、4月—89% 5月—91% 6 月—87% 7月—84% 9月—84%である。 ○毎月「きらきらカード」での自己評価や委員会活動での点検 活動を通して、子どものよさやがんばりを認めていった。 ◎各学年の達成率の差をなくすように、「無言清掃」の意味を 再確認させ、各学年90%以上の達成率になるようにする。 児童会活動との連携や教職員が自分の担当区域を見回った り一緒に掃除をしたり、子どもを褒めたりして指導を徹底さ せる。
	継続										

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

			<p>◇花壇・教材園を1年中稼働させる</p>	<p>a</p>	<p>□学年教材園, 学校園(花壇)はすべて稼働している。学年園では, 学習や学年に合わせた作物(じゃがいも・さつまいも・インゲン豆等)が植えられている。学校園は, 飼育栽培委員会により季節の花が植えられ, 環境美化につなげている。</p> <p>○学習環境を整えるために, 各教室や廊下には, 季節に合わせた花や観葉植物を置いて落ち着いた学習環境をつくるようにしている。</p> <p>◎引き続き, 花や観葉植物や作物を計画的に置いたり栽培したりすることで学習環境を整えていく。また, 水やりや草取りなどを通して世話をすることの大切さを実感し, 生命を大切にすることの育成につなげていく。</p>
			<p>▽無断欠席は即連絡をし, 二日以上欠席したら家庭訪問をする。</p>	<p>a</p>	<p>○毎朝, 出欠の確認をし, 連絡のない家庭には担任・生徒指導主事が連絡を取り欠席理由や居場所の確認をしている。2日欠席が続くと短時間でも家庭訪問を行い, 家庭や児童の様子を把握し声かけをして登校を促した。2学期はじめの欠席・不登校を未然に防止するため, 夏休み中から家庭と連携をとりながら取り組んだ。</p> <p>□9月末で30日以上欠席者は0人である。</p> <p>◎引き続き, 毎朝の出欠を確認するとともに, 児童の居場所をはっきりさせたり, 遅れてでも登校させたりするなど安易な欠席をさせないようにする。スクールカウンセラーの支援を受け, 担任だけの取り組みにならないように生徒指導主事と連携しチームを組んで取り組む。</p>

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

					△家庭5分間運動を継続・定着させる。晴れの日外遊びを90%以上にする。	<p><b>b</b></p> <p>□5分間運動の継続、定着→b</p> <p>①宿題への位置付け→100%</p> <p>②5分間運動の定着状況→80% (カードによる確認)</p> <p>③体育における「遊び」を取り入れた準備運動の実施状況→50%</p> <p>晴れの日の外遊びの状況→85.8%</p> <p>○新体力テスト県平均以上の項目率について、前年度は39.6%の項目が県平均を上回った。</p> <p>参考までに、本年度の新体力テストの結果を昨年度の県平均と比較してみると、平均以上の項目率は47.9%になる。</p> <p>男子では、「上体起こし」「50m走」「ボール投げ」、女子では、「50m走」に課題が見られる。</p> <p>◎家庭5分間運動については、運動の継続を図るために取組みを継続する。ステップアップカードに記録を記入し、個別に課題を意識させ、運動の継続への意欲につなげていく。「遊び」を取り入れた準備運動については、時間がかかることもあり定着が難しかったが、子どもの興味や意欲につながるものと考え継続していく。</p>	
力 働 の 教 職 員	1	①県内どこにでも通用する授業力をつける。 ②専門分野での指導者を3人以上輩出する。	★	継続	B	◇管理職による授業観察を一人につき2回以上行う。 ◇自己課題をもって研究・研修を行う。	<p><b>b</b></p> <p>□授業観察 week を計画し、一人につき1回以上授業観察を行った。</p> <p>○年間計画に沿って授業研究を実施している。(実施回数9回〈1年国語2回, 2年生国語2回, 3年国語1回, 4年国語1回, 5年外国語1回, 6年外国語2回〉)</p> <p>◎今後も、授業観察を行う体制を組み、計画的に授業研究を実施していく。</p>
	1		継続	①年間、各学年2本以上の授業研を実施する。 ②コーディネーターとしての自主研修を3回以上行う			▽教育研究団体研修会・研究会へ年間2回以上参加し、職場へ還元する。

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

市川小SAMI T T 校務改善計画	1	①安心・安全の学校づくり	★	継続	①児童の事故を0にする	B	◇避難訓練3回, 防犯・交通教室2回実施する ◇組織的取組み体制を確立する。関係機関との連携を密にする。	b	□交通事故は1件で自転車での事故であった。9月末の主な問題行動は、昨年と比べていじめ0件, 万引き2件, 金品持ち出し2件となって昨年度より減少しているが, 8時以降になっても家に帰ってこないことが6件と急増している。 ○不審者に対する避難訓練を1回, 防犯・非行防止教室を各1回, 交通教室を1回実施した。1年は3月までは自転車での外出を禁止した。 担任が問題を抱え込まないように, 生徒指導主事等と連携を密にし, 組織として対応している。家からの飛び出しでは, 警察や子ども家庭センターと連携し取組んでいる。ネグレクト等児童虐待については, 子ども家庭センター・子育て支援課・生活福祉課等と連携し取組みを進めている。 ◎避難訓練では, 訓練のための訓練にならないように緊張感を持ち目当てを持たせて取り組ませる。登下校や下校後の外出時, 左右の確認・飛び出し注意等交通安全教室で学んだことを繰り返し指導し, 通信等でも保護者に伝えていく。また, 帰宅時刻の厳守についても保護者の協力を得ながら取組んでいく。 生徒指導に関して, 生徒指導マニュアルをもとに一貫した指導を行い, 担任だけの取組みにならないように, チームをつくって対応すると共に, 警察・子ども家庭センター・子育て支援課・生活福祉課等と速やかに連携し取組む。	
	3	②服務規律を厳守し, 規範意識が確立した組織づくり		継続	①児童の問題行動を前年比50%減とする。 ②職員の不祥事を0, 病休者を0にする				a	□川口サミットを1学期2回実施し, 職員研修は個人情報, 体罰, 交通事故等を3回実施した。学校管理運営21項目の研修は夏休み中に全項目を実施した。 ○10月現在で職員の不祥事は0である。 ◎今後も服務研修を計画的にタイムリーに行っていく。
									◇6ロクデー(水曜日6時にロック)の完全実施を90%とする	d